

## 第35回ズーム三水会記録

日時：2024年5月15日（水）16時～18時

- ① テーマ：「市民生協群の誕生とその50年― 私的体験を中心に」
- ② 発表者： 齋藤嘉璋氏
- ③ 司会：富沢賢治氏

参加者 10名（敬称略） 團野廣一 野口幹夫 小関 栄 波治裕美 石塚秀雄 丸山茂樹  
鈴木 岳 齋藤嘉璋 富沢賢治 岩垂弘

**報告内容：**1958年早大生協での活躍から始まり、地域生協から全国的な生協運動の活性化の支援を行ってこられた長い歴史を回顧された。日本における生協活動は3千万人を越え、単に経済活動のみではなく、社会的評価を高める取り組みを続けている最大の拠点となっている。詳細はご報告の録画と巻末の添付資料をご覧ください。

**質疑討論：**司会の富沢様の計らいで、生協活動に研究と支援を続けてこられた岩垂弘様と丸山茂樹様からのコメントをいただいた。これも内容が深いのですが、詳細は録画をご覧ください。

**録画：** <https://youtu.be/W15HRtR1084>

**添付資料** ①「市民生協群の誕生とその50年― 私的体験を中心に」

②写真1―1950年代後半の早大生協（20周年史から）

③写真2 生協規制反対 雪の中の座り込み 水環境問題の取り組みから生まれたコープ洗剤  
著者出版の本 日本の生協活動の歩み 生協の歴史から学ぶ戦争と平和

## 市民生協群の誕生とその50年— 私的体験を中心に

齋藤嘉璋

### 1、 前史—1960年前後の大学生協

#### ① 大学生協—創成期から発展期へ

<1958年早大生協常務理事、大学生協連常務理事に>

1958年 大学生協連法人化、大学生協路線の確立、新設支援・組織拡大、

1959年 早大生協法人化、学生中心から全学組織へ、専従専務制へ

<生協規制反対—59年2・26雪の中の座り込み。60年3月卒業を留年し日本生

協連に8月就職—総会で予算が決まらなると職員の採用できない貧乏団体>

・安保闘争と学生運動の高揚と分裂

<6・15国会行動—全学連・樺美知子の死と右翼の市民グループ襲撃>

・日本生協連—地域勤労者生協の後退、低迷期

<貧乏だが偉い人ばかりの日本生協連、発足間もない日協貿KKと全国事業生協連。

新橋の労金会館は労金協会、全労済も一緒。低賃金長時間労働の支えは？>

#### ② 1960年ころの生協

全国 組合数 1020 (地域 450,職域 500、地職 50) 組合員 392万人 供給高 420億円  
(日本生協連の経営統計など実施無。)

東京 組合数 133 組合 組合員 29万人 事業高 76億円

50年代後半から地域生協は休眠、解散。55年200組合が58年の健全組合は30。

60年代前半は職域生協や労信販生協などの事業は伸びたが、地域生協は苦戦。

<主な地域生協> 下馬3丁目、高円寺6丁目。戸山ハイツ、桐ヶ丘文化、  
労働者クラブ、砧、武蔵野、松沢、野方、氷川下、小菅、清砂など。

## 2、高度成長の矛盾と新生協づくりー60年代後半

### ① 高度成長の諸矛盾のもとで

新住民の要求ー住宅、通勤、買い物、保育・学校

物価高や公害問題など住民運動、革新自治体の誕生（67年美濃部）

#### ・東京での新生協設立の動き

1965年2月 ひばりが丘生協（東久留米・田無・保谷）

5月 緑ヶ丘生協（調布・仙川）

6月 生活クラブ結成（世田谷）、68年に生協化

1966年以降、北多摩市民生協（東久留米団地）など

### ③ 大学生協の支援で3生協の設立

1964年11月 洛北生協（同志社生協）

65年5月 札幌市民生協（北大生協）

65年11月 所沢生協（大学生協東京地連と日本生協連）

この3生協の設立は、労組に依存した運営で失敗した50年代の地域勤労者生協に代る主婦を中心とする市民による**新しい生協＝市民生協の誕生**を意味した。

### ④ 日本生協連の「首都圏大生協構想」と東京生協の設立

このような動きを受け、日本生協連は店舗のチェーン展開が出来る「大生協」の設立計画を進め、東京・神奈川の生協と大学生協の協力のもと1969年5月、東京生協が設立された。しかし、2店舗め出店で経営破綻、日本生協連は70年6月の福島総会で「落下傘方式の組織づくり」や「直営的な運営」などを反省する総括をする結果となった。

<東京生協設立のための大学生協の幹部人事に関連して、69年2月、日本生協連は斎藤を4か年契約の outward で早大生協に移動させた。斎藤はコープ洗剤などの開発担当を続けたかったが・・・。>

### 3、戸山ハイツ生協再建支援—都心部での生協づくり

#### ① 戸山ハイツ生協の再建支援

- ・桐ヶ丘生協への支援(法政生協の支援に続き都生協連からの要請(1969年))。

戸山ハイツ生協は1947年設立。都営団地で寄り合いマーケットと診療所、理美容店をもっていた。団地再建と「担務者問題」などが課題。

- ・専務理事はじめ幹部職員の派遣(東京生協への派遣5人を含む)
- ・共同購入を団地外で展開—静岡生協、横浜生協、生活クラブなどから学ぶ
- ・小型店出店 71年早稲田店 75年 落合店、千駄ヶ谷店 76年 要町店
- ・73年 戸山店開店(東京の生協では最大店、灘神戸生協などの支援)
- ・主婦組合員の出資、利用、運営=三位一体(「組合員に依拠」ではない)

コープ商品と産直—安心・安心をめぐって

- ・大学生協の支援

ア) 人材(経験者と学卒)、イ) 信用(金融、取引)、ウ) 施設など

#### ② 東京での拠点生協めざして

- ・「1%生協からの脱皮」「東京での一大消費者集団の形成」を目指して

文勤生協(東大生協が設立支援)との一体運営、南部・西部市民・練馬などとの協同。桐ヶ丘生協は大学生協連の支援もあり都民生協として発展。

- ・1977年 3生協合併 戸山ハイツ生協 1万4000人、30億円、5店舗

都民生協 3万6000人、84億円、14店 文勤生協 3800人、10億円、4店舗

新 東京都民生協—78年、6万人、116億円、23店舗

### ③ 多摩地区での大学生協の取り組み

1972年、三多摩市民生協設立（東経大生協、国分寺）—東村山市民、

東京西部市民（緑ヶ丘）、北多摩市民（ひばりが丘）などの生協と合併。

1982年 都民生協と合併（都民生協は80年労働者クラブ生協と合併）

新都民生協（82年末）15万人、300億円、15店舗で全都に拡大。

・東京生協と合併—コープとうきょう誕生

1992年 東京生協（6万3000人、142億円、4店舗）と合併

新・コープとうきょうは全都で展開する東京の拠点生協となった。

## 4、生活クラブ生協やたつみ生協などの誕生と発展

### ① 生活クラブ生協（東京68年設立）

・生活者運動、住民運動として — ー ー 代理人運動など

・共同購入生協として — ユニークな産直や商品

→ ワーカーズ・コレクティブとデポーなど

74年埼玉、76年千葉、長野、77年神奈川で生活クラブ設立

80年代全国各地に設立と事業連合

→ 生活クラブ生協東京の分割、その大胆な試みは？

（参考—佐藤慶幸「女性と協同組合の社会学」など）

## ② パルシステムグループの誕生と発展

辰巳団地生協（70年3月）を中心にタマ消費、小金井、北多摩、あけぼの、江戸川など8生協が2段階合併「マイコープ」（1995年）

→ 個配事業を率先して導入

→ 「首都圏事業連合」結成（のちのパルシステム）

“反主流派”の旗を掲げて→ “独立派”として共同？

（下山保「異端派生協の逆襲」（2009年）、「西暦2030年における協同組合」（2020年）など参照）



<斎藤 1978年東京都生協連常務理事、生協間の競合から連帯へ  
81年日本生協連へ、総合企画部担当。89から99年常務理事>



全国の新生協設立一覧表

[資料] 1960～1990年の地域購買生協設立一覧表

設立年	数	設立された主な生協名(生協、生活協同組合は省略)
1960	2	不入斗、島田勤労者
1961	5	苫小牧地区労働者、東京労信販、静岡県中部労働者、山梨県労働者、佐曾利
1962	3	静岡県東部労働者、七尾鹿島労働者、米沢地区労、
1963	2	飛騨地区労働者、山口中央
1964	3	茨城県労働者消費、小豆島消費、 <u>洛北</u>
1965	6	<u>札幌市民</u> 、 <u>室蘭中央</u> 、 <u>ひばりが丘</u> 、 <u>山梨県郡内労働者</u> 、 <u>緑ヶ丘団地</u> 、 <u>所沢</u>
1966	2	佐久間、香川県労働者消費
1967	2	茨城県労働者消費、安茂里(長野)、
1968	6	岩見沢市民、新潟県労働者総合、 <u>生活クラブ(東京)</u> 、 <u>小笠原消費</u> 、 <u>長野</u> 、 <u>豊</u>
1969	12	<u>小樽市民</u> 、 <u>盛岡市民</u> 、 <u>宮城県民</u> 、 <u>若松市民</u> 、 <u>いわき</u> 、 <u>東京</u> 、 <u>名古屋勤労市民</u> 、 <u>善行</u> 、 <u>福山</u> 、 <u>中遠</u> 、 <u>長崎滑石消費</u> 、 <u>みいけ</u>
1970	11	<u>函館市民</u> 、 <u>山形</u> 、 <u>前橋市民</u> 、 <u>埼玉中央市民</u> 、 <u>辰巳団地</u> 、 <u>タマ消費</u> 、 <u>愛知中央</u> 、 <u>泉北</u> 、 <u>松山勤労市民</u> 、 <u>尾道</u> 、 <u>くまもと</u> 、
1971	17	中札内、岩手県民、秋田市民消費、 <u>水戸市民</u> 、 <u>埼玉南部市民</u> 、 <u>練馬</u> 、 <u>北多摩</u> 、 <u>北多摩市民</u> 、 <u>小金井</u> 、 <u>相模原</u> 、 <u>浜見平</u> 、 <u>みどり</u> 、 <u>岐阜消費</u> 、 <u>広島県婦人</u> 、 <u>佐賀市民</u> 、 <u>ふくおか東部</u> 、 <u>鹿児島市民</u>
1972	17	<u>日立市民</u> 、 <u>埼玉北部市民</u> 、 <u>東京南部</u> 、 <u>三多摩市民</u> 、 <u>あけぼの</u> 、 <u>稲毛</u> 、 <u>長野県地婦連</u> 、 <u>浜松勤労市民</u> 、 <u>清水</u> 、 <u>湖南消費</u> 、 <u>大津</u> 、 <u>菅浜</u> 、 <u>三重県民</u> 、 <u>洛南</u> 、 <u>北九州市民</u> 、 <u>市民生協(熊本)</u> 、 <u>八代市民</u>
1973	13	<u>弘南</u> 、 <u>宇都宮陽南</u> 、 <u>山梨中央市民</u> 、 <u>とちぎ</u> 、 <u>高島平団地</u> 、 <u>東都</u> 、 <u>船橋市民</u> 、 <u>岐阜地区市民</u> 、 <u>みかわ</u> 、 <u>北九州筑豊市民</u> 、 <u>ふくおか西部</u> 、 <u>宮崎市民</u> 、 <u>熊本県地婦連</u>
1974	20	<u>むなかた</u> 、 <u>宇都宮市民</u> 、 <u>高崎市民</u> 、 <u>生活クラブ(埼玉)</u> 、 <u>東京西市民</u> 、 <u>立川</u> 、 <u>東葛市民</u> 、 <u>調布</u> 、 <u>市民クラブ</u> 、 <u>西湘市民</u> 、 <u>富士</u> 、 <u>東三河</u> 、 <u>伊勢消費</u> 、 <u>富山県地域市民</u> 、 <u>大阪いずみ市民</u> 、 <u>えひめ</u> 、 <u>三重県民</u> 、 <u>奈良市民</u> 、 <u>宮崎県南部市民</u> 、 <u>ふれあい</u>
1975	18	<u>青森市民</u> 、 <u>郡山市民</u> 、 <u>松本市民</u> 、 <u>伊勢崎市民</u> 、 <u>常総</u> 、 <u>わらび</u> 、 <u>江戸川</u> 、 <u>ほのほの</u> 、 <u>柏市民</u> 、 <u>西多摩</u> 、 <u>富士宮</u> 、 <u>けんぱく</u> 、 <u>日の里</u> 、 <u>大阪かわち市民</u> 、 <u>小松市民</u> 、 <u>福岡市民</u> 、 <u>ふくおか北部</u> 、 <u>ふくおか南部</u>
1976	22	<u>帯広市民</u> 、 <u>弘前市民</u> 、 <u>八戸市民</u> 、 <u>茨城県南</u> 、 <u>渋川市</u> 、 <u>群馬北部県民</u> 、 <u>群馬西部市民</u> 、 <u>生活クラブ(長野)</u> 、 <u>東京婦人コーベル</u> 、 <u>生活クラブ(千葉)</u> 、 <u>下総</u> 、 <u>花見川</u> 、 <u>大阪みなみ市民</u> 、 <u>大阪しろきた市民</u> 、 <u>大阪東部</u> 、 <u>みやがわ</u> 、 <u>石川</u> 、 <u>滋賀県北部</u> 、 <u>たかわ</u> 、 <u>日田労農</u> 、 <u>筑豊市民</u> 、 <u>沖縄南部市民</u>
1977	8	<u>釜石市民</u> 、 <u>安佐市民</u> 、 <u>足利市民</u> 、 <u>神奈川みなみ</u> 、 <u>大阪よどがわ</u> 、 <u>福井県民</u> 、 <u>久留米市民</u> 、 <u>北九州北部</u>
1978	5	<u>北上市民</u> 、 <u>栃木県南</u> 、 <u>尾張</u> 、 <u>いいづか</u> 、 <u>福岡県南部</u>
1979	7	<u>仙台共同購入会</u> 、 <u>生活クラブ(茨城)</u> 、 <u>伊豆</u> 、 <u>大阪西部</u> 、 <u>滋賀県東部</u> 、 <u>広島中央市民</u> 、 <u>長崎県南部</u>
1980	1	<u>わかやま市民</u>
1981	3	<u>いばらき</u> 、 <u>みえきた市民</u> 、 <u>比津が丘</u>
1982	5	<u>生活クラブ(北海道)</u> 、 <u>よつ葉会</u> 、 <u>共生クラブ</u> 、 <u>するが</u> 、 <u>あみの</u>
1983	3	<u>秋田県南</u> 、 <u>生活クラブ(茨城)</u> 、 <u>鳥後消費</u>
1984	7	<u>けせん</u> 、 <u>生活クラブ(山梨)</u> 、 <u>さきたまグリーン</u> 、 <u>しまね</u> 、 <u>とくしま</u> 、 <u>城北</u> 、 <u>出水地区</u>
1985	3	<u>とわだ</u> 、 <u>こうち</u> 、 <u>ナチュラルコープやまぐち</u>
1986	5	<u>生活クラブ(岩手)</u> 、 <u>ナチュラルコープ・ヨコハマ</u> 、 <u>都市生活</u> 、 <u>市民にいがた</u> 、 <u>おおいた</u>
1987	3	<u>青森県民</u> 、 <u>生活クラブ(静岡)</u> 、 <u>グリーンコープさが</u>
1988	1	<u>生活クラブ(愛知)</u>
1989	2	<u>福祉クラブ</u> 、 <u>グリーンコープほうふ</u>
1990	6	<u>東毛</u> 、 <u>県民生協クローバー</u> 、 <u>向陽社</u> 、 <u>ふれあいコープ徳島</u> 、 <u>グリーンコープさせほ</u> 、 <u>グリーンコープいわくに</u>

## 5、全国の主要都市に拠点的生協誕生—70年代

<日本の生協運動の本格的な発展期>

新生協の設立 1965～69年 28組合

70年代 70～74年 98組合

75～79年 60組合 70年代計158組合

- ・大学生協連が地域生協設立支援に取り組むことを決議（00年総会）
- ・70年代の前半に全国の県庁所在地と主要都市に設立・布陣し、拡大した。
- ・地域生協の組合員
 

1970年から80年、80万人から210万人増加し、290万人へ、  
全体では310万人が670万人になった。
- ・手段は共同購入とコープ商品や産直、担い手は主婦層の組合員。班を基礎に  
「出資・利用・運営参加」の三位一体と活発な組合員活動。
- ・各県で合併などの連帯が進み、拠点的生協誕生。拠点的生協は店舗重視ある  
いは共同購入と併用型が多かった。

表1) 70年代の全生協、地域生協の推移

年度	全生協		地域生協		
	組合員数	事業高、億円	組合員数	事業高・億円	組織率 %
1970	312万人	1、960	79	791	—
1975	514	5、695	184	3、176	5.4
75/70 %	165	291	233	402	
1980	672	11、081	292	6、758	8.0
80/75 %	131	195	159	213	
80/70 %	<b>215</b>	<b>565</b>	<b>370</b>	<b>854</b>	



## 6、生協の無い市や町はないー80年代の広がり

### ・80年代の新設生協

80～84年 19組合    85～90年 20組合    計 39組合  
1965～90年の合計 225組合

- ・地域生協組合員は10年で290万人から3倍の916万人へ。
- ・80年代後半から地方都市で設立された生協は共同購入型（90年代後半からは個配型）で、独自性を強調するものが多かった。
- ・生協間連帯は県内連帯・合併から県域を越えた「事業連合」組織が各地で誕生。  
これまでの指導連や共同仕入れ・問屋機能の事業連ではない単機能の協同体としての連合会「事業連合」が大きな役割をもつことになった。

<斎藤は政策担当として全国中計等でそれを提起、促進した。新たに設置された日本生協連の「〇〇地連」と合わせ、事業連合も大学生協の経験をもとにしたものであった。>

表2) 80年代の全生協、地域生協の推移

年度	全生協		地域生協		組織率
	組合員	事業高	組合員	事業高	
1980	672	11,081	292	6,758	8.0
1985	1,018	18,731	575	13,486	14.7
85/80	151	169	197	200	
1990	1,410	27,772	916	21,592	21.9
90/85	139	148	159	160	
90/80	210	251	314	320	

## 7、成長鈍化、転換期の困難—90年代

- ・新設生協の誕生はなく、事業の成長は鈍化（94年、事業高前年割れ）
- ・地域生協の組合員拡大も90年代後半から鈍化した。
- ・“専従主婦”の減少、生活様式変化、班共同購入から個配へ。店舗経営の困難
- ・コープさっぽろなど経営困難やいずみ問題など経営と信頼の危機
- ・県域を越えた連帯「事業連合」の誕生（法人認可）

89年 首都圏コープ事業連合（関東7都県10単協）、ユーコープ事業連合（3県）  
生活クラブ事業連合（16都道府県）、

92年 コープネット事業連合（5県） 93年 コープ九州事業連合

94年 東海コープ事業連合 95年 コープ東北サンネット事業連（3県）、  
コープ北陸事業連合（3県）

表3) 90年代の全生協、地域生協の推移

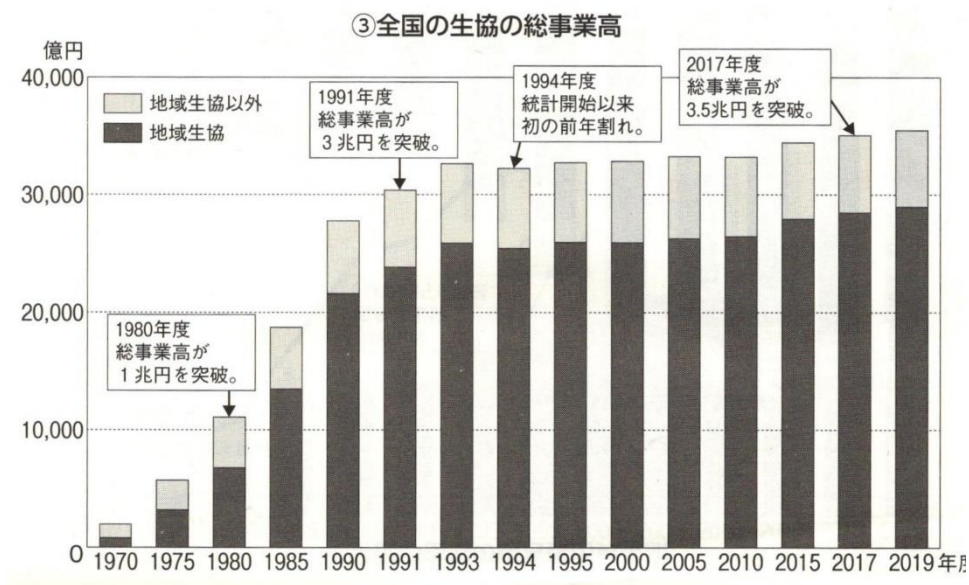
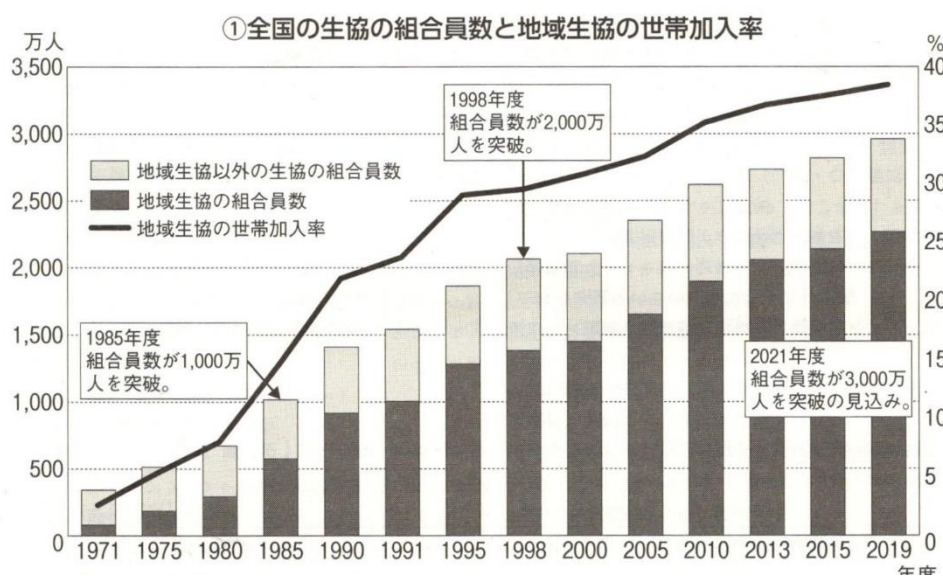
年度	全生協		地域生協		組織率
	組合員	事業高	組合員	事業高	
1990	1,410	27,772	916	21,593	21.9
1995	1,863	32,739	1,283	25,943	29.0
95/90 %	132	118	140	120	
2000	2,104	32,832	1,450	25,915	30.5
00/95	113	100	113	100	
00/90	149	118	158	120	

## 8、21世紀を迎えて

・2000年 組合員 2100万人（地域シェア 31%） 事業高 3兆 2860億円（2.6%）

2010年 組合員 2620万人（地域 35%） 事業高 3兆 3220億円

2020年 組合員 2997万人（地域 38%） 事業高 3兆 5495億円



## 21 世紀に入ってからの特徴的な動き

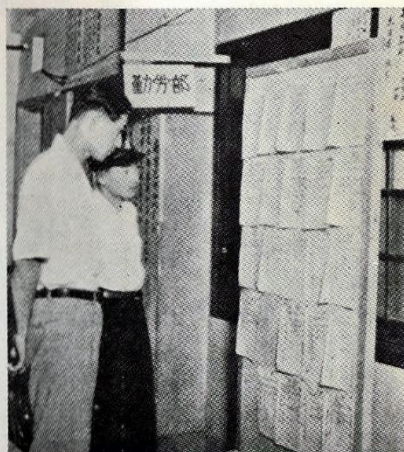
- ・組合員の増加は続く。 2021 年 3000 万を超え、22 年 3054 万人となった。
- ・供給高は横ばい。 2015 年少し改善、20 年 3 兆 8150 億円。21, 22 年微減。
- ・広域連帯—  
03 年コープ近畿（5 府県）、05 年コープ中四国（9 県）などの事業連合発足、コープネット事業連合へのコープとうきょうの加入など、各事業連合に会員増などがあり、2010 年 13 事業連合となった。
- ・07 年生協法の改正—共済事業の分離・コープ共済連発足。
- ・県域を越えた合併でコープみらい、ユーコープ生協等が誕生。
- ・2011 年の東日本大震災や 20 年以降のコロナ感染症への対応など、苦戦しながら社会的評価を高める取り組みを続けている。

以上

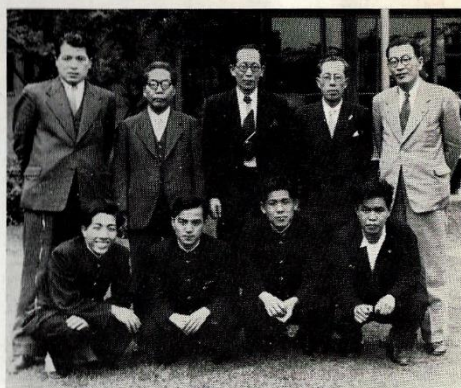
三水会報告写真1—1950年代後半の早大生協(20周年史から)

“協組”から  
生協へ

(右, 中) 田文学部(8号館)  
地下の生協売店と勤労部



早稲田祭参加の生協「もぐら座」, 右はじ現て  
んぶくトリオの伊藤四郎氏 (31年11月)



29年の協組理事会メンバー  
前列左から 小島, 森定ひとりおいて茂利の  
各氏。後列左から 滝口, 京口, 平田, 江家,  
青木の各先生



## 三水会報告写真 2

日本生協連、生協規制反対 2・26 雪の中の座り込み



1959年2月26日、生協規制をふくむ小売商業調整特別措置法の国会通過を阻止するため、雪の降りしきるなか、全国生協の代表団は国会議事堂前で座り込みを行った。

60年安保闘争



日本生協連総会終了後、安保反対の国会請願に出発する総会参加者たち（1960年6月）



町内会生協のひとつ。45年11月設立の東京の高円寺六丁目生協（日生協資料室資料から）



三水会報告写真3



北大教職員の住宅地にあった札幌市民生協大学村の店頭風景(日生協資料室資料から)



緑ヶ丘団地生協の牛乳共同購入風景(日生協資料室資料から)



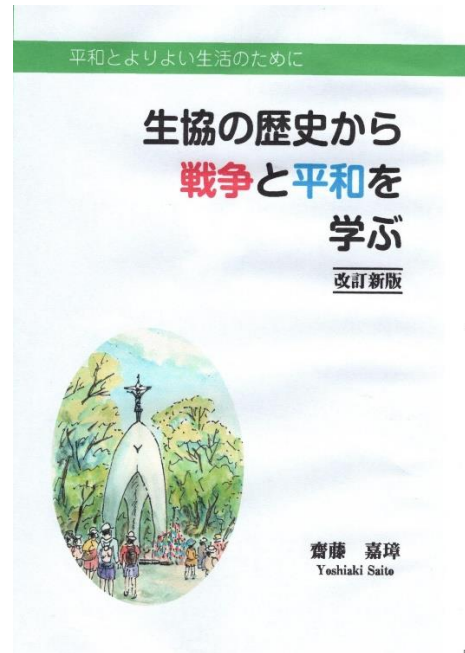
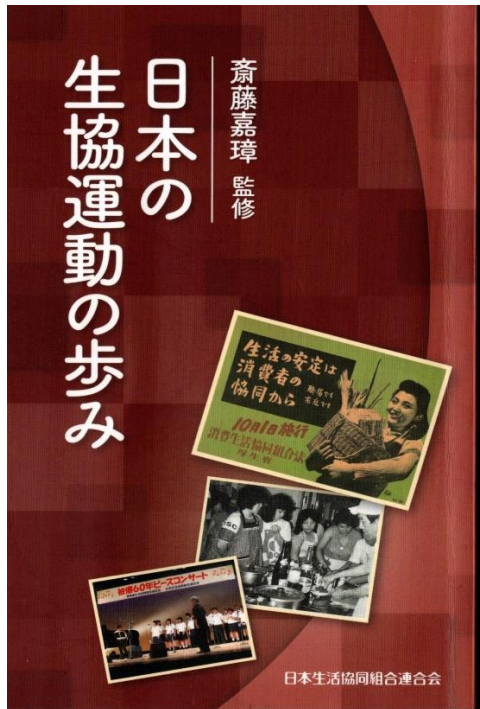
戸山ハイツ生協一戸山店



組合員の要求を組合員自身の参加で実現した本格的コープ商品開発の第1号「CO-OPソフト」の宣伝普及活動風景(大阪北生協、日生協資料室資料から)

水環境問題の取り組みから生まれた  
コープ洗剤





### 齋藤嘉璋 生協略歴

1936年新潟県佐渡生まれ。1958年早大生協、全国大学生協連常務理事（学生）。1960-68年日本生協連組織部、事業部。69年早大生協専務、72年大学生協東京事業連合専務、69年から戸山ハイツ生協再建支援、75年戸山ハイツ生協専務。78年都民生協と合併・専務。79年東京都生協連常務理事。82年日本生協連役員室長、89年同常務理事。99年同参与。以降いばらきコープ、コープとうきょう、東都生協の非常勤理事。